

【報告】超高速光エレクトロニクス（UFO）研究会：2017年11月17日（金）

2017年11月17日（金）に本学キャンパスにおいてコヒーレント光量子科学研究機構とJST, ERATO 美濃島知的光シンセサイザプロジェクトが共催して超高速光エレクトロニクス（UFO）研究会（委員長：西澤典彦）が開催されました。UFO研究会は、レーザー光源の高強度化、超短パルス化、高安定化、そして先端光源による高速物理現象を30年余りに渡り探究してきた歴史ある研究会であり、超高速光エレクトロニクス分野で活躍されている国内の研究者らが多数本研究会に参加され、出席者は60名を超える研究会となりました。中野和司理事（研究担当）・コヒーレント光量子科学研究機構長から、本学でのUFO研究会開催への挨拶のち、超短パルスレーザーに関連する新規光源開発、物質との相互作用、そして新奇物理現象など11件の研究講演が行われ、いずれの講演に対しても様々な質問や意見が数多く寄せられ、超高速光エレクトロニクス分野の研究活力の高さを感じさせました。本学からも最新の研究成果を報告する3件の講演があり、この分野における本学の存在感を顕示していました。講演会終了後、本学キャンパス内で懇親会も催され、たいへん盛況でした。本研究会は100周年記念事業に登録されています。

<http://www.uec.ac.jp/100th/introduction.html#news20170721>